

第5回

英語と外国語の接触

固有名詞にみる英語と 外国語との接触の跡

共通するのは
何でしょうか



-ing

Mac-, Mc-

Ab-, Ap-

O'-

Fitz-

-son

Ben-



「答：息子」

Anglo-Saxon →

-ing

Celtic →

Mac-, Mc-

Celtic (Welsh) →

Ab, Ap

Celtic (Irish) →

O'-

Norman French →

Fitz-

Scandinavian →

-son

Hebrew →

Ben

Fitz- **Fitz**gerald

-son **Anderson**

Cf. デンマークでは
Andersen

Ben- **Benjamin**

-ing **Browning**

Mac- **MacArthur, MacDonald**

Ab-, -Ap **Ap-Howel < Powel**

O'- **O'Conner**

O'Brien

O'Hara

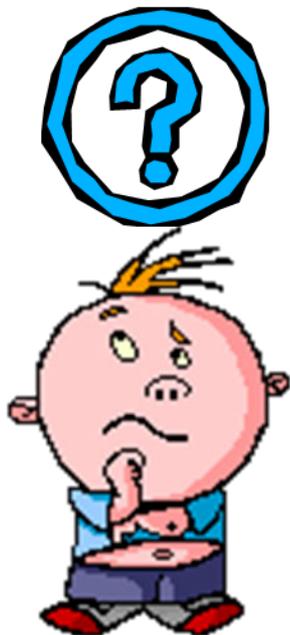
Browningとkingの-ing

-ing=「...に属する者」、「...に由来する者」、「一族の子」、「一族で大事な者」

kin + -ing > king

-ing → 一族に属する者 > 一族の代表者、一族の中の大切な人

例えば「テレビ」はもともと何語？



tele -vision

「ギリシャ語」+「ラテン語」
異なる外国語の要素から
なっているので
混成語(hybrid)という



さまざまな言語と接触

変容の大きな要因

英国諸島に住んだ民族と言語

古英語期以前 (アングロ・サクソン人が英国諸島に来る前)

住民

言語

ケルト人

ケルト語

ローマ帝国のイングランド支配とローマ兵士の駐留。そしてローマ帝国の滅亡とローマ兵士の撤兵。



43 - 476年

民族

言語

支配階級

ローマ人

ラテン語

庶民

ケルト人

ケルト語

英国諸島に住んだ民族と言語

古英語期（その1）

アングロ・サクソン人が侵入・定住。ケルト人をイングランドから住辛いスコットランドやウエールズやコンオールに追い払う。



[英国諸島で使用された言語]

ケルト語

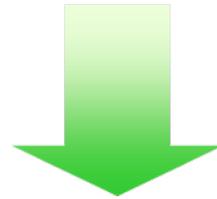
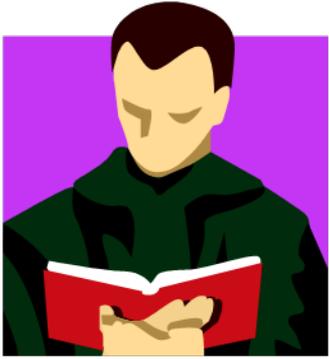
アングロ・サクソン語＝英語



英国諸島に住んだ民族と言語

古英語期（その2）

ローマの宣教師による布教活動



[その影響]

- ・ ラテン語の単語の流入
- ・ ラテン語表現の模倣
- ・ ラテン語アルファベットの採用

**大陸から持ってきた自分たちのアルファベット
＝ルーン文字を捨て、宣教師のアルファベットを採用**

英国諸島に住んだ民族と言語

古英語期（その3）

ヴァイキングの侵入とイングランド定住

ヴァイキングの言語＝古代ノルド語



[その影響]

ヴァイキングの代名詞(they their them)の採用に代表されるように、古代ノルドの英語への融合は日常語に多い。

ヴァイキングってどこの人？



英国史においては、その出身地に関わらず「デーン人」と総称。

デーン人もゲルマン民族の一種。今で言うデンマーク、ノルウェー、スウェーデン出身の北欧人を指す。英国各地で侵略、略奪、破壊を繰り返した。このデーン人の言葉が「古ノルド語」(Old Norse)で、インド・ヨーロッパ語族の北ゲルマン語に所属する言語。

アングロ・サクソン語は西ゲルマン語に所属

実は！

アングロ・サクソン語と古ノルド語は同じルーツ

ヴァイキングとアングロ・サクソン人が共存を始めると、同じ意味を表す異なる単語があることに気付き始めた。その場合、一般的な意味は侵入者のヴァイキングの単語で表し、侵入された側の単語の意味が特殊化する場合があった。それだけヴァイキングの力が強かったのでしょう。

アングロ・サクソン語と古ノルド語で同じ意味を表した単語

古ノルド語

アングロ・サクソン語

そのまま日常語

浸透

意味の特殊化

例

古ノルド語

アングロ・サクソン語

古英語期

deye (to die)

steorfan (to die)

中英語期

deyja (to die)

sterve (to steave)

近代英語期

die (死ぬ)

starve (餓死する)

実は！

アングロ・サクソン語と古ノルド語は同じルーツ

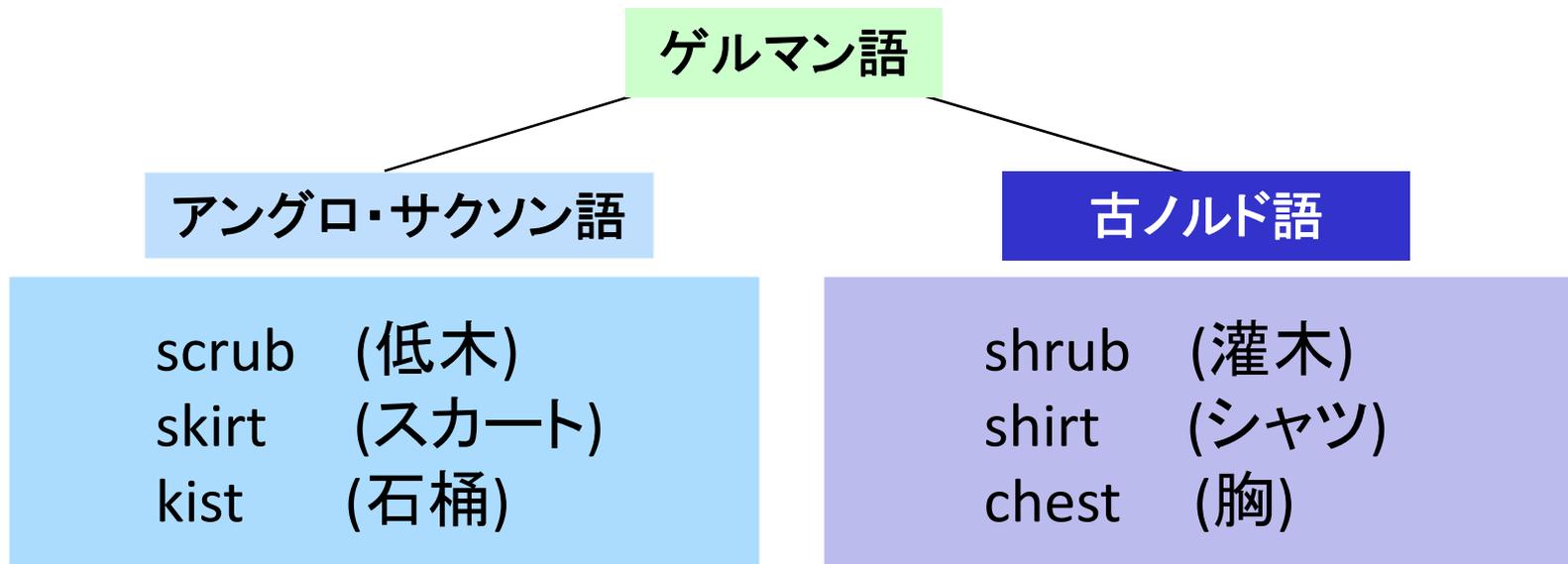
共通の単語に遡るヴァイキングの語とアングロ・サクソン人の語もあった。それらの中には、お互いに意味が異なってしまってから、イングランドで出会った単語もあった。

このような単語を指して、doublet(二重語)と言う。

二重語「ダブレット」(doublet)

もともと同一言語の同一の単語であったものが、異なる言語で使用される間に、発音も意味が異なった単語

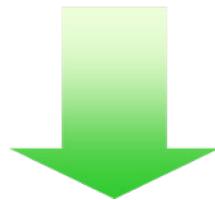
アングロ・サクソン語と古ノルド語の間で発生！



中英語期

フランスのノルマンディーに領地を与えられ、フランス王の臣下になったヴァイキングの7代目の子孫William1世がイングランドを征服し、イングランドの王になった。

その結果



イングランドに来た貴族達はWilliam1世の臣下で、祖の北欧の訛りを残すフランス語を話した。そのフランス語を中央のフランス語と区別して **Norman French** と言う。

中英語期

イングランド人口の約10%のNorman Frenchを話すノルマン貴族がイングランドを支配

公用語および支配階級の言語

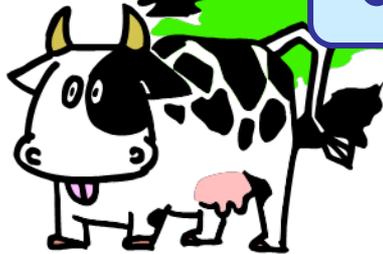


beef • chamber



フランス語

下層階級の言語



cow • room



英語

社会的二言語使用状態の出現

*Norman Conquest*の影響

*** 語彙 ***

1066年：フランス語を母語とするノルマン人のイングランド征服と言語

類似の意味を表す侵略者と被征服者の単語が接触

侵略者の言葉 → きれいなもの・洗練されたもの用
非侵略者の言葉 → きたないもの・原始的なもの用

フランス語起源

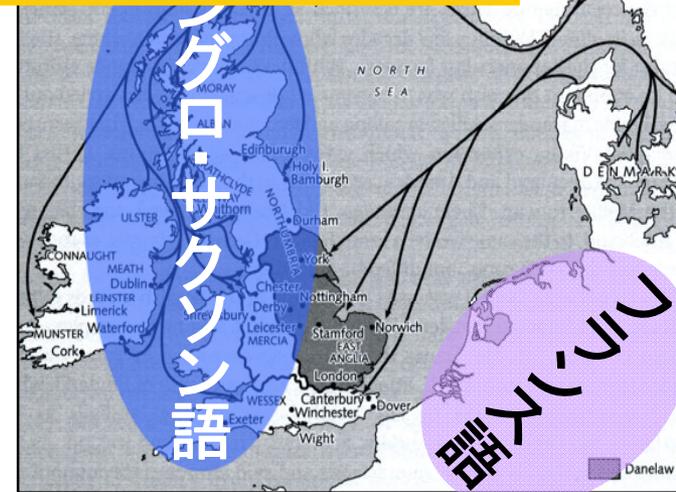
料理用肉の名前

beef (ビーフ)
mutton (マトン)
pork, bacon (ポーク・ベーコン)
venison (鹿肉)
poultry (とり肉)

英語起源

動物の名前

cow・ox (牛)
sheep (羊)
pig (豚)
deer (鹿)
fowl (とり)



フランス語起源と英語起源

chamber : 豪華な部屋 (フランス語起源)

room : 普通の部屋 (英語起源)

chair : 贅沢感のある椅子 (フランス語起源)

stool : 簡単・庶民の椅子 (英語起源)

類似の意味の単語の共存と意味の分化

英語起源

フランス語起源

begin - **commence**

help - **aid**

wedding - **marriage**

child - **infant**

hide - **conceal**

hearty - **cordial**

フランス語支配時代の借入語: 政治用語の例

administer

authority

country

crown

government

liberty

nation

parliament

people

public

reign

royalty

state

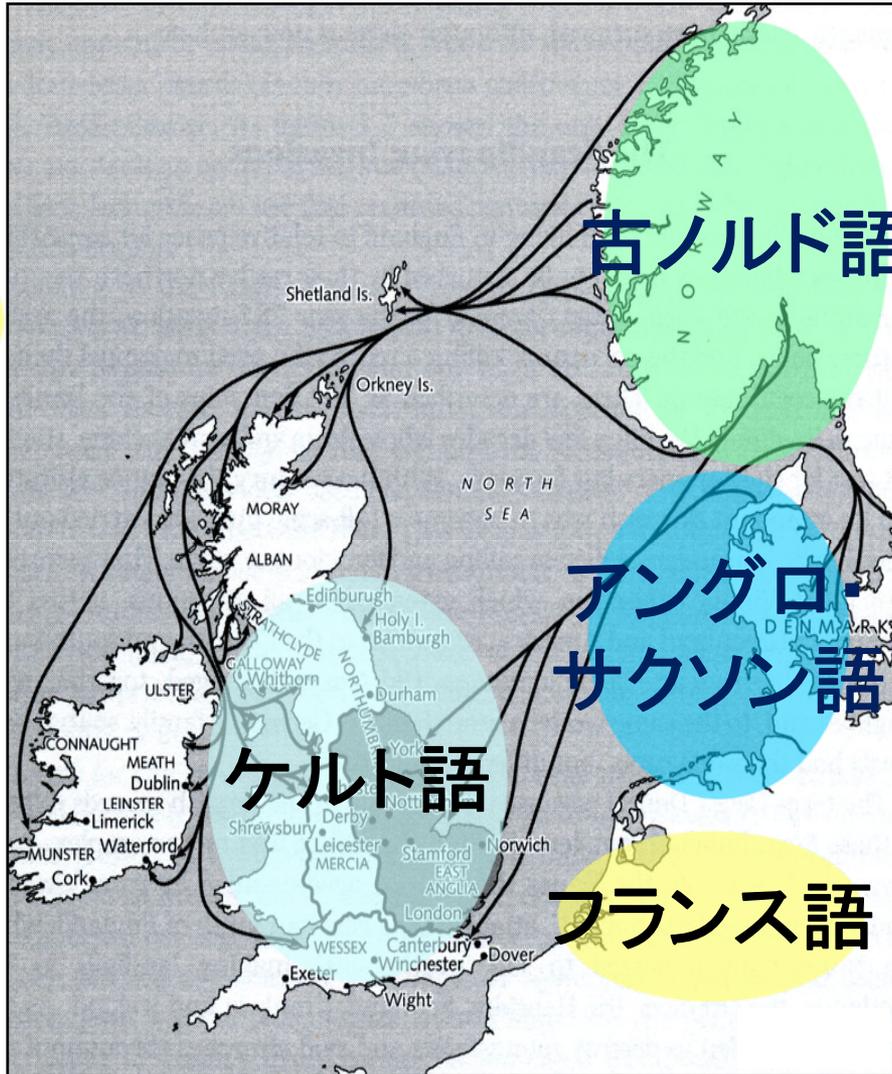
tax

council

court

確認問題

ラテン語



地図上の言語を
1つ選び
英語との関係を
述べてみよう！

確認問題



(解答例) ラテン語

古英語期にローマの宣教師による
布教活動が盛んになり、
ラテン語の単語が多く入ってきたり
ラテン語アルファベットが採用されたりした。

確認問題



二重語の例をあげて、解説してみましよう。

確認問題



「二重語」

もともと同一言語の同一の単語であったものが、異なる言語で使用される間に、発音も意味が異なった単語。

例えば、shirt-skirtはもともと「丈の短い服」を意味したが、アングロサクソン語と古ノルド語で使用されている間に発音が異なってしまい、それぞれ異なる衣服を指すようになった。